

# 同推協だより

No.131

2022年 9月5日発行

神前地区同和教育推進協議会

Email: kanzaki-do@2.cty-net.ne.jp

## 普段「おかしいなあ」「どうしてかなあ」と思ったこと！

先日、読売新聞オンラインニュースで、「小学校で「あだ名」「呼び捨て」は禁止、「さん付け」指導広がる。」という記事を見ました。子どものころから、あだ名、略称、呼び捨て等、色々な呼び名で親しみを込めて現在でも友達を呼んでいる私にとっては、少し複雑な思いがあります。

表面に見えるところから対処して、それをきっかけに子ども達に「なぜそうするのか。」を考えさせ、本質を理解できるように教えていければよいのですが。

この記事を見て25年前に初めて同推協活動に参加した時のことを思い出しました。

それまで私は、気にしていないし、友達とも仲良くしているし、だから差別はしていないと思っていました。しかし、ある講演会で「差別は『言葉にして言ったり』『態度で表したり』する、見えるものだけではないのですよ。」と言われ、「あなたは、本当に差別をしていませんか。」と問いかけられました。

それから、差別の本質は何だろうと疑問を持つようになり、研修会や懇談会を重ねていくうちに、それは「自分の心の問題」であり、「自分の中の差別意識と向き合い、認めるところから始まるのだ。」と気づきました。

それまで、他人事だったことが、やっと自分の問題として考えられるようになり、そして現在でも自問自答しながら自分の差別意識と向き合っています。

高角町 大森嘉春



私が最近気になったことは、性差別に関する以下の記事でした。

「順天堂大学医学部の入試を受験した女性13名が性別を理由に差別されたとして、慰謝料等の損害賠償を求めた。」(朝日新聞)



性別を理由に、入学試験で、公正な判断をしてもらえなかったという事実に心が痛みました。受験において、医師としての資格とは関係ない所で不当に判断されることは、将来の望みを断たれることにつながると思っています。

私自身、性差別を受けている自覚がないですが、自分より年齢が若い女性が、受験で不利な対応をされたことに憤りを覚えました。これまでに、このような不当な判断基準がまかり通っていたことが信じられませんでした。

世の中で日々起こっていることに関心を持ち、自分に引き寄せて考えられる自分になりたいと今改めて感じます。日常生活の中にある不当な性別による差別に、子どもたちと共に考えていきたいと思っています。

神前小学校 西村彩花

## 人権フェスタかんざき 多くの方々に参加いただきました。



6月12日(日)、神前小学校体育館において、第20回神前同推協「人権フェスタかんざき」が開催されました。

今年は、コロナ禍も配慮し、映画上映を行いました。

午前は62名、午後は45名の方々に観賞していただきました。いつもとはちょっと雰囲気の違いを感じましたし、「ボクは坊さん。」という映画も見ごたえのある内容だったので、見ていただいた方には満足いただけたようでした。

以下にアンケートの抜粋を紹介します。

- 「生きる」ことの意味を深く考える映画でした。生きていれば、予期せぬことが起こります。その時に、他人を批判することは簡単ですが、その立場に立った時、どう考え、どう行動するかが大切だと感じました。スタッフのみなさん、お疲れさまでした。
- 「人生は、お祭りのようなもの。」「一日一日の積み重ねを大切に」という言葉が印象的でした。「生きているだけで奇跡」ともよく聞きますが、改めてその通りだなと実感しました。生活していると、いろんなことに不平不満を出してしまいがちですが、日々感謝の気持ちを忘れずに、過ごしていきたいです。
- 自分の回りにいろんな人がいて、支えてもらっていることをあらためて感じるとともに、自分ができることを少しずつしていきたいという想いに立ちました。この想いがずっと続いていけるように、自己啓発して行きたいと思っています。
- 映画を見て、人生において様々なことに直面した時に、心を整理するということが大切だと感じました。いろいろな人の考え方や価値観がある中で、日々自分自身を振り返ることを大切にしていきたいと思いました。そして、自分だからできることを、私も見つけていきたいと思いました。

## 夏の啓発委員研修が延期になりました。

7月8日に予定していました夏の啓発委員研修が、新型コロナウイルス感染症の新規感染者急増のため、延期となりました。感染状況を見ながら10月ごろに再度計画し、募集して実施していきたいと考えております。

なぜ延期にしたかということ、今回の啓発委員研修は、「カルタ取り」をメインにしていきたいと考えていたからです。

神前同推協には、先人の方々が残してくれた独自の「人権カルタ」があります。研修啓発部がそれに着目し、「カルタ取り」をしながら、「カルタ」を作ってくれた先人の方々の想いや、その「カルタ」から自分を振り返る時間をもって、自分の中の差別心に気づいてほしいと計画しました。

しかし、コロナ下では「カルタ取り」が一番のネックです。「カルタ取り」に熱中し、感染対策がおろそかになってはいけないとカルタ取りだけ取りやめにし、延期にしました。

次回開催は、第1回目研修を10月6日(木)、7日(金)。第2回目研修を10月13日(木)、14日(金)と予定しました。

新型コロナの状況がまだわからないので、4日間研修を2日間にし、1回2時間研修時間を1時間半の短縮して計画しています。参加募集を再度行いますので、ぜひ参加してください。

## 四日市市同和教育研究大会に参加して



- 差別に腹が立たない人は、差別を解決できないという話が納得できました。先生方は、差別の氷山の一角だけでなく、氷山の下の9割の部分に目が行くように、考えさせ、想像させてほしいと思います。
- 清原さんのお話は、教育のお話でしたが、私は、子育てにも通じる内容だと思いました。教養も大切ですが、それだけでは人は人間になりません。感受性、思考力、判断力、想像力、表現力……。日々日常生活の中で、人との関わりの中で培われる物の方が大切だと言えるのかもしれませんが。同推協活動も人との関わりの中で、自分にできることを日々考え続け、活動する。清原さんの言われる教育と同じだと思いました。
- 「差別に怒れない人が、どうして差別をなくす子どもを育てられるのか。」差別のものしりを作るのではなく、差別をなくすそうとする心を育てることが大切だと思いました。
- 「差別はするしないだけでなく、許すか許さないかが問われている。」今、差別を許さない自分ではいるか？ いまだに差別を「他人事」としている自分がいたことにはっとして気づかされました。
- 「そやけどな。」この一言は、学んで感じたことを「0（ゼロ）」や「-（マイナス）」にし てしまします。自分自身の中の「あるある」、と気づかされる言葉でした。



• 「差別の話をするときは、口先だけでは相手に伝わらない。真剣に考えた自分の想いを、身体を通して発しなれば、相手の心を動かさない。」自分はそうしているだろうか。また、「みんなが差別をなくす当事者であることにこだわり、将来差別に出会った時ではなく、今どうするかを考え行動する。」といわれ、自分を振り返ることの意味が分かりました。

- 小中学校のレポートから「自分の想いを話し、伝える」取り組みをしていることを知りました。大人も、自分の立ち位置を振り返りながら話すことで自分の差別心に気づけると思います。
- 人間としては、「感受性」が必要です。なぜなら、「差別」に出会った時に怒れないからです。「昔からみんながそういう。」「せやけどなあ。」という「世間体」ではなく、「思考力」「判断力」「創造力」「表現力」を学校教育と社会教育が連携していかなければ「感受性」は育ちません。同推協も社会教育の一員として「何をしたらよいか。」を模索し、考えていかなければならないと思います。いつか、「同推協」が「人権協」と改名できる神前を目指したいと思います。

**研修啓発委員の今後の予定** 啓発委員を中心に、次のような活動をしています。

(コロナ感染症の状況で延期、中止になるかもしれません。ご了承ください。)

毎月1回 一般公募の会（誰でも参加できる啓発委員の研修の場になっています。）

10月ごろ 啓発委員研修会（今回延期した研修会を実施したいと考えています。）

11月13日（日）市人同協西部ブロック人権講演会 桜小学校体育館

講師・内容 未定（他地区の方々とも意見交流ができるといいですね。）

11月20日（日）神前同推協フィールドワーク

水平社博物館と西光寺（同推協50年、初心に戻って考えよう！）

「水平社宣言」は、「誰もが生まれてよかった、ここにいてよかった。」と思える世の中を目指して作られた、日本初の人権宣言ともいべきものです。今年で100周年です。

※ 啓発委員中心の活動です。関心のある方は右下の募集によって啓発委員に申し込んでいただければ参加できます。

## 人権カルタコーナー 今月の1枚！



逃げないで  
自分の意識を  
見つめよう

今回は、この「カルタ」をチョイスしました。この「カルタ」で考えたいのは次の2点です。まず1点目。「逃げないで」とありますが、「どうして」逃げてしまうのでしょうか。どうして？ 「どうせ差別はなくなると思っているから。」「くどくど言われると、言われることが嫌になってくるから。」などあると思います。あなたはどうか。2点目は、「自分の意識」を分かっているのかという点です。「見つめよう」としても、何を見つめてよいかわからない人がいます。あなたは、「今、差別に対して、どの位置にいますか。」あなたは、「今、差別に対して、どのように関わっていますか。」「差別はいけないからしない。」という人の多くは、「しない」けど、思っていないか。「しない」けど、「差別をなくす行動をしなければ、していると変わりない。」と分かっていますか。自分の意識を見つける方法を教えましょう。人との意見の違いを見つけることです。懇談会をはじめ、様々な方々と語り合い、自分の想いがみんなと違うところを見つけましょう。それが自分の意識です。それが差別的かどうかということも、語り合いの中からわかってきます。「自分の意識を見つめる」ことを始めるのはそこからです。自分の意識を見つめることができるようにがんばって、逃げないで語り合いましょう。

## 秋以降には、町別・団体別懇談会が行われる予定です。

覚えてみえますか。懇談会とは「語り合う場」です。誰かに何かを教わる場ではありません。自分の想いや考えを語り、人の想いや考えを聞く場です。時には議論にもなるでしょう。しかし、それが目的ではありません。語り合うことで、自分の想いや考えを自分で振り返り、自分を見つめ直す場です。地元で開催された場合はぜひ参加してみてください。語り合うことが大切です。

### 同推協啓発委員 募集中

啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。（申込用紙は置いてあります。）お電話でも、FAX、メールでも構いません。啓発委員になっていただければ委員研修やイベントに参加したり、同推協の活動内容のお知らせを送らせてもらったりします。

【問合せ先】地区市民センター内 団体事務局 Tel・Fax 327-1501（受付午後）

Email : kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp